ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌 2024

Takefree!

なび

12月号
vol. 214

「やまゆりのクリスマスツリー」
制作：秋山信子さん

クイリングでできてます

まちびと探検 特集

＼第3回／
「ひとりぼっちにしないさせない」
まちづくり——
茨木市総持寺のM-CANとFM

第3回

「ひとりぼっちにしないさせない」まちづくり
――茨木市総持寺のM-CANとFM

まちびと探検

西成区北西部地域で住まう・働く
10代～30代の若者たちが、
各地の先進事例から「まちづくり」を学ぶため
地域を飛び出し、街や人を探す旅にでる。
若者たちの視点から見た北西部地域の課題や
各地で行われているまちづくりを探ってみよう。

大阪府茨木市は人口28・7万人の特例市。大都市である大阪市と京都市の間にある北摂三島地域に位置し、交通利便性の高さや良質な住環境を備えていることから大阪のベッドタウンとしての性格を持つ。また、当市北部と箕面市をまたぐ国際文化公園都市「彩都」の開発などを背景に一貫して人口が増加している。

今回はそんな茨木市総持寺にあるNPO法人に突撃取材！「誰とも話をしない日をつくらない、ひとりぼっちにしないさせない」を掲げるまちづくりの実践現場におじゃまして沢山のヒントを持ち帰った。

M-CAN

正式名称は「特定非営利活動法人三島コミュニティ・アクションネットワーク」。Mishima Community Action Networkの頭文字をとった「M-CAN（ミカン）」の愛称で地域の人々から親しまれている。

M-CANの目的は、茨木市とその周辺地域を基盤にした地域課題の発見や地域住民同士の共助の仕組み作りを提案することを通じて、福祉、教育、人権、文化、環境、子どもの健全育成など暮らし全般を高める事業を行い公益に寄与すること。

その目的のために①コミュニティデイハウス「日向（ひなた）」、②親子交流の場「こえんひろば」、③コミュニティ・ソーシャルワーカー「CSW」配置、④ユースプラザ「ちょい（choi）」、⑤地域交流促進・相談事業などを行っている。

下調べを進める中で特に気になったCSW事業とユースプラザ事業ちょい（choi）の地域FMラジオについてスタッフの方々に尋ねてみた。

2020年10月にリニューアルした「みかん屋」1階は総持寺カフェ、2階にはM-CANの事務所

CSW

磯 CSWができた背景を教えてください。

ス CSWは地域の身近な相談窓口として2005年10月に立ち上がりました。

2000年頃は介護保険制度、障害者の自立支援の法律が変わっていく大きな転換期でした。社会福祉事業法が社会福祉法に改正されていく中で、地域でもNPOを立ち上げて協働した取り組みを進めて行こうという機運があり、街角で高齢者を見回るまちかどデイハウスやCSWのような地域課題に対応する取り組みとしてスタートしたのがきっかけです。現在まで茨木市内全ての中学校区にCSWが配置されるようになりました。

磯「誰とも話をしない日をつくらない。ひとりぼっちにさせない。」というスローガンを掲げておられますよね？ 僕たち若い世代が目指したいまちづくりにもすごくあてはまるキーワードで、私たちが住む西成区も高齢化が進んでいて独居老人や不登校の子どもたちの増加、シングルマザーも多いので

単身でお住いの高齢者の自宅に安心ドアセンサーを設置

ヤングケアラーも深刻な課題になっています。M-CANのCSWでは具体的にどんな取り組みをされていますか？

ス 高齢者のみの世帯や公営住宅の中での孤立死が社会問題になるほど増えてきている背景として、自分で声を出すのが苦手、難しい当事者が多いことがあるように思います。CSWの趣旨でもありますが、その声をキャッチするには、高齢者福祉の縦割りに生じた隙間や谷間に潜む声、たとえばお元気だけれども「高齢になってきて気になることがある」だとか、「しんどいけどよう言わん」とか、制度では対応しかねるちょっとしたことを「発見する」「つなぐ」、そんなことを主な役割として日々活動しています。

また、個別のケースワークや見守り名簿を活用し、民生委員や包括支援センターなどの関係機関や市役所の生活福祉課の担当者をはじめ30名程度の会議を隔月開き、専門職の関わり方などを検討しています。

磯 網の目のネットワークをしっかりと構築されているんですね！ 各セクションのしっかりとした連携がいかに大切かがわかりました。ありがとうございます。

FM

磯 今回、M-CANさんを訪ねるにあたって色々調べていたら地域FM？をされていることを知り、聴いてみました。ほんとにしっかりとしたラジオ番組ですよね！ それも地域向けも地域向けで、地域の子どもたちをゲストに迎えるなど発想もそうですけど個人的にめちゃくちゃ面白い取り組みだと思いました。FMが始まったきっかけはなんだったんですか？

ス 2011年にスタッフ一人で「ラジオ部」をスタートさせました。当初は地域の活躍される方や「私は地域でこんなことをしてます」という普段はスポットが当たりにくいことを発信していたのですが、「面白い！」という評判をいただき、しばらくしているうちにいろんな若者がラジオ部に集まるようになりました。

不思議なことに、ちょっと生きづらさを感じている子や障がいを持った子たちが集まるようになりだして、その子たちの居場所となっていきました。実際、ラジオの収録よりも、みんながだべっている時間のほうが長かったりします。そういう特性をもった子たちなので集合時間を決めても集まるのはその3～4時間後で収録が終わると夜中になるなんてこともしばしば（笑）

それでも僕たちは「待つ」と決めたんですよ。その子たちにとっては居場所的なものだから、その中で相談を受けたり、みんなの「しんどさ」を聞いたりしていくうちに「ラジオに出てみようかなぁ」なんてラジオに出演して歌を歌う子も出てきたりして（笑）当時は「ミカンジュース」という番組で活動をしていたんですけど、今から7年前にユースプラザ事業「ちょい（choi）」に統合して「ちょいラジ」の名前で活動するようになりました。

昨年まで地域団体と協力して休眠預金を活用した「地域密着型人権FM放送局（ピクシーダスト）事業」の取り組みを行い、時には地域で働く人達にスポットを当て、時には中学校のサークルと一緒に取材をして地域の情報を発信しました。地震や大雨など災害のことや地域の防災のことを放送してみたり、「困ったときやしんどい時に相談や応援、サポートするよ」という想いを発信したりといろんな人たちの協力を得ながらみんなで作ってきた地域FMという感じです。

インターネットラジオの収録の様子

皆さんに届けるというのもありますし、私たちにとっても地域に居られる方々とのネットワークがより深まった取り組みだと思います。

まとめ

活動を進めて行く中で起こった問題や課題に対して丁寧に一つ一つ向き合いながら取り組んでこられたということがすごく伝わってきた今回の取材。

横の連携の大切さや地域に根差したまちづくりという観点で多くの学びを得ることができた。西成でも様々な取り組みをしているが、そこにスポットを当てて誰もが主役でみんなで支え合うという基本的な姿勢を学べたのはこれからの僕たちの活動に欠かせないものだと思う。

文責：磯拓哉

※ユースプラザ事業「ちょい（choi）」は中高生からおおむね39歳までの方の居場所や相談を受けたりしている事業です。

楽塾 遊び編 13

毎週土曜日開催の楽塾は24年夏に開塾17周年を迎えました。楽塾の理念は〈あそびを学び、まなびを遊ぶ。新しい学校の冒険〉。様々な地域や場で居場所づくりに汗する人々への参考にと、これまでの〈あそび〉を隔月連載で紹介してきました。まだまだ多くのあそびをお見せする予定でしたが本号が最終となります。読者のあたたかいご意見を頂き感謝いたします。

みんでタからのおこのみ

楽塾のこと

2000年より野宿者応援を行う中、当事者の共同住宅づくり、ハンディある若者支援、彼らが通う自立塾にしなりサテライトづくりに関わりました。05年に楽塾設立準備委員会を発足し、開講のカリキュラム作り、協力者や、塾への参加希望者に呼びかけ、3年後の08年、やっと毎週土曜日の「楽塾」が開講しました。2年間掲載したこの「遊び」の最後に、楽塾の紹介をさせていただきます。

カリキュラムは『仕事の回復課程』・『健康の回復課程』・『人間性の回復課程』の3つの回復を想定し、各課程の中よりテーマを探し、それらを授業としました。

例えば『仕事の回復課程』のテーマでは、本誌4月号紹介の田植え作業などは〈仕事づくり〉の一例でした。『健康の回復課程』では〈住環境・健康を振りかえる〉。『人間性の回復課程』では〈心の回復・生老病死・親と子・男と女・自己表現〉などがテーマです。

講師はライターやセラピスト・商店主・教授・院生・僧侶・バーのマスター・NPO職員・会社専務・美術家・演出家・俳優・政治家・性同一障害者ら、分野を超え多数の協力があり、もちろん塾生・当事者諸君も講師となりました。

有縁の大切

これまで620余回の授業を行い、『なび』掲載の〝遊び〟のほか〝学び〟も同様に、テーマを検討し授業をしました。限られた字数ですが、楽塾原点となる授業の一部を記述します。

日ごろツッ張っている男たちが「わしら死んだらどうなるんや」「血糖値が高いらしい」「金貸して」など、会話の中で日常聞く言葉。ギャンブルやアルコール、薬物依存、出所者、病理ある若者たちに関わる中で、世間の蔑視をかいくぐり、しかし死の恐れは誰もが体験する共通の感情と知ります。

「排他な世間と、自立しがたい日常を生きる男の相克」を、危うい崖ぶち生活体験した己に重ね、生者必滅、会者定離など、歴史を越え現れる人間の衰亡や無常みたいなものが、今に続く楽塾活動の通奏低音になるのです。それは『人間性の回復』のヒントとなり、生老病死にもつながります。

楽塾開塾当初はとくに死をテーマとしました。友人の僧侶や葬儀社の協力を得て、人との関わりが薄く、何よりこの地に漂着した人たちに『鎮魂祭』(離別・死した両親や近親者への慰霊)という授業を催し、多くの住民を集めました。また自ら棺桶に入り『生前葬』という仮死体験授業を実施。その後「死んでからのお楽しみ」をテーマに、霊魂の場、祈りの場、〝有縁〟の場である『楽塾共同墓地』を造り、季節の折々、縁ある塾生たちが骨となる彼らに会いに行きます。「いつかはここへ」とにぎやかに。

10年40回授業「みどり荘」広島市湯気町

11年課外授業「ことぶき霊園／楽塾共同墓地」

心やすめの修学旅行

楽塾は年一度〝心やすめの修学旅行〟を催します。旅は19年まで続きましたが、その後のコロナ禍・旅費値上がりなどで断念しました。

最初の旅は和歌山県の熊野。平安期、遊びの名人後白河というおっさんが、京の都から33度巡幸したという熊野本宮や那智などへ私たち楽塾も2度ほど挑戦しました。太地町捕鯨博物館では反捕鯨団体に遭遇し連帯を求められたのは驚きでした。

国譲り神話の島根県出雲大社や鬼太郎にも遊びましたが、旅先の夜の定番となる楽塾の「遊び」ゲームは、旅以上に好評でした。滋賀県の琵琶湖や比叡山延暦寺の素晴らしい大雪の風景や、高島市安曇川水郷地帯の訪問では、比良山系から流れる地下水を周辺地区の家庭が取り入れ、その湧き水(生水)を今も生活用水に利用する「川端文化」。訪問した集落で美味しい水を飲ませて頂きました。

広島市の旅では、原爆ドームに塾生たちが作った千羽鶴を献上。宿泊したみどり荘(スラムダンクで有名)が、帰阪直後の全焼ニュースでビックリ。福井県は東尋坊、道元の永平寺、恐竜博物館の発掘資料の凄さ。しかし、今度は宿泊した近くの旅館の「焼失ニュース」でまたビックリ。沖縄県の嘉手納基地では戦闘機が飛ぶ爆音と辺野古移設の怖さ。帰阪して5か月後、訪問した朱色の首里城が全焼。楽塾は行く先々、火の疫病神だったのか?

魂を祈る場・歴史を伝える場、無信心ながらも神社仏閣の参拝・伝統的地場産業の現場・軍事的要塞化の現実も見てきました。初期楽塾エピソードのほんの一部をご紹介できたものの、紙数なく「遊びページ」のお別れです。年末の火事にはご注意を!

えと文:楽塾 佐々木敏明

09年37回授業「熊野神倉神社」(2度目の旅)

[田岡秀朋]AIを身近に感じた1年でした。資料作成や情報収集など、作業の効率化には必要不可欠になりそう。来年はAI提案の適否を判断できる思考力を磨かなきゃ。

[笹川勝正]ついに子どもが塾に通い始めました。毎月塾代の出費で胃が痛いですが、子どもの将来のためと思い、泣きながら自分の食費を削って過ごす今日この頃です。

[沖田一志]Copilotに全角50文字前後で自己紹介を頼んでみた。「Microsoft Copilotは、GPT-4を基にした会話型AIで、情報提供やサポートを行い、ユーザーのニーズに応じた柔軟な対応が可能です。」

[磯拓哉]年に一度の西成区の運動会。二日酔いだったが毎年恒例となっているので長橋地域として参加。結果は去年と同じ3位。トロフィーを返還せずに終わることができたが筋肉痛がひどかった。

西成の地域を忙しく走り回る日々を送るおかん。仕事で出会った人びとの生活の一コマをため息まじりにつぶやきます。※文中は関係者各位の許可をとって掲載しています。

おかんのため息

●おかん はぁ…。もう飲みに行くとき自転車乗られへんわぁ。

◆息子 なんや急に。

● 11月から自転車の罰則規定が強化されたんや。あんた知らんの？

◆ たしか、自転車での酒気帯び運転と、「ながらスマホ」の罰則が追加されたんやったな。

● しばらく前に自転車で走っとったら、横の路地から急におっちゃんが飛び出してきて、私の自転車の後ろにぶつかってん。

◆ えー、怖いなぁ。

● こっちは大丈夫やったけど、おっちゃんはひっくり返って頭打って。「救急車呼びましょうか？」って聞いたら、「大丈夫、大丈夫。昔ボクシングやってたから」言うて。しばらくしたら起き上がって立ち去りはった。

◆ でも、心配やね。

● うん、名前と家の場所は聞いたから地域包括支援センターの看護師さんと見に行ったけど、留守やって。どうしようって思って警察に行ったら、そこで怒られてもうた。

◆ なんで？

● 事故の現場に警官が行く前に解散したら、両方ともひき逃げ扱いになるらしい。事故があったら、その場で警察に連絡しないとダメですよって言われた。

◆ へぇー。

● あと、もし後でケガがわかっても、事故証明の番号がないと労災も下りひんし、保険も使われへんらしいで。

◆ それは知らんかったなぁ。

● それで、何かあったら必ず警察に電話するって、身につけたつもりやった。でも、半年後ぐらいにまた同じことしてもうて。

◆ 次は何があったん？

● 自転車で走ってて、交差点で前の信号が赤になったから、先に左側の信号を渡ろうと思って左に向きを変えたんや。そこへ後ろから自転車で走ってきたおっちゃんに猛スピードで突っ込まれて、思いっきり路上にバーンって。

◆ 今度は自分がひっくり返ったんや。

● まぁ、後ろも確認せずに急に曲がったおかんも悪いんやけど。おっちゃんは何ともなかったけど、私は起き上がれへん状態やった。でも、おっちゃんに「姉ちゃん大丈夫か？」って聞かれたら、「大丈夫、大丈夫」って。

◆ 最初のおっちゃんと同じこと言うてるやん（笑）あと、姉ちゃんでもないし。

● 結局、頭が真っ白になって、その場で解散してもうた。後になって、電話せなアカンかったわぁ、って思い出してん。でも、あの状況で警察に連絡しづらいと思う。警官が来て路上で取り調べみたいなことされるの、人に見られたら恥ずかしいと思わへん？

◆ あぁ、それはちょっとあるなぁ。

● でもな、恥ずかしいと思っても絶対に警察は呼ばなアカン。後で大きなケガがわかったときに大変やで。おかんはたまたま上手な転び方したから、骨折せずにすんだけど。体じゅうにアザができたけど、ちょうど四十肩の痛み止めを飲んどったから大丈夫やった。

◆ 四十肩？

● あ、間違えた。六十肩や（笑）とにかく、あんたも何かあったときのために自転車保険ぐらいは入っとったほうがええで。

◆ そうやな。あと、ヘルメットも大事。

● ええタイミングやし、私もそろそろヘルメット被ろうかな。知らんけど…。

[安田拓也]本誌コーナーの楽塾は、芝居の稽古中。年末に公演予定で、練習から小道具や背景の製作もーから行いました。人前で何かを披露するという機会が楽塾に訪れたのは、最高のあそびとまなびの時間。

[福井龍磨]西成における紡績の歴史を調べ直している。明治から昭和初期にかけて、この街の発展は紡績とともにあった。しばらくは歴史の森の中で、もうこの世にいない女工たちの声に耳を傾けることになる。

10月31日はハロウィンパーティー！ 子どもたちはもちろん先生たちも様々な衣装を着て、楽しい時間を過ごしました。先生たちが準備したクイズ、ゲーム、お化け屋敷、パレードを楽しみ、「trick or treat」の掛け声でお菓子をもらうと、今年も笑顔あふれるハロウィンになりました！

大阪市の住民参加型地域組織「地域活動協議会」の活動に橋を架けよう「近ツ橋【ちかつきょう】」

近ツ橋

松之宮ホースパーク

乗馬は武士の嗜みとされていたが、現代では馬に乗って通勤している人はほとんど皆無だろうし、乗馬を体験したくて牧場などへ行くのは中々に骨が折れる。しかし、西成で1日限定だが乗馬を体験できるイベントがある。しかも無料だ。

そのイベントとは、松之宮地活協と「まつばはぐくみネット」が実施する松之宮ホースパーク。旧松之宮小学校で乗馬や馬車体験を楽しむことができる。

松之宮ホースパークは「ホースパークひだまり」の協力の元で実施され、今年で5年目を迎える。当日は天気にも恵まれ、多くの人でにぎわう中、可愛い2頭のポニーに注目が集まっていた。

子どもたちはカウボーイハットをかぶってポニーに跨るとテンションは最高潮。乗馬を終えるとポニーへ感謝の気持ちを込めて人参を食べさせることもでき、滅多にできない体験に会場は笑顔で溢れていた。

乗馬と馬車体験以外にも、けん玉や竹馬などの昔遊びコーナーもあり、子どもたちにとっては最高の思い出ができた1日だった。

[西田吉志]2025年12月は、ヒューマンライツ福祉協会が30周年(1995年12月設立)、2026年1月は、にしなり隣保館ゆ～とあいが10周年(2016年1月開設)、2027年5月はナイスが30周年(1997年5月設立)を迎えるね。

[谷口円]念願の「パソコンをデスク下に吊るす＝机の上からなくす」を実現させました！机がスッキリ広くなって快適。これだけでしばらく日々のHAPPY度が上がります。

葉っぱの吐見（といき）

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。

「フィカス・ウンベラータの葉っぱ」の巻

今年の夏。
作者と出会えたわたし。
暗い箱。
じっと待っているわたし。
一筋の光。
眩しくて手をかざすわたし。
笑顔の作者。
視線があって照れるわたし。
明るい部屋。
家族の一人になれたわたし。
週一度の日光浴。
シャワーで水分補給するわたし。
今年の冬。
少し背が伸びたわたし。
これからの事。
作者のそばで生きたいわたし。

赤井まゆみ

フィカス・ウンベラータのこと
クワ科のフィカス属。ゴムの木の仲間でハート型葉っぱが特徴。花言葉は「永久の幸せ」「夫婦愛」

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちで皮算用していることを語っていくよ。

衆議院議員選挙は前号での予想に近い結果になった。ただ、維新による大阪の全選挙区の独占には驚いた。小選挙区という選挙制度が招いた結果だろう。

27日投票日に管理責任者として投票所に朝6時30分から最終までいて、少し感じた事がある。まず、最高裁裁判官の国民審査では、ほぼすべての人が投票する意味やどんな裁判官であるのか知らずに投票している。白票でも信任したことになる投票に何の意味があるのか。国民に意思を問うなら問える環境を作るべきである。

また今回、多くの候補者がネットを活用したようだが、この傾向は益々強くなり、いずれネット投票も実現するだろう。野党の一部は二世議員にいろいろ意見があるようだが、たしかに今の選挙制度では若い新人の当選は不可能に近い。選挙期間の短さと選挙区の広さを考えればしっかりした組織や後援会がないと無理ではないか。選挙の在り方について国会で検討してほしいものだ。（寺本良弘）

いい湯かげん

ボクが考えた十大ニュース

師走なので、ボクが思う今年の十大ニュースを綴ってみる。読者の皆様もやってみてはいかがか。

①1月1日石川県能登半島でM7・6の地震、災害関連死者は260人となった。9月の記録的大雨で「二重被災」と言われたが、復興の遅れも合わせると「三重被災」となった。地震と言えば、8月8日から15日まで、日向灘地震を受け、「南海トラフ地震臨時情報」（巨大地震注意）が発表され、いつ大規模地震が起きてもおかしくないと宣告され緊張した。②5月頃、米の値段が前年同月比で12％も高騰し、スーパーから一時期米が消え、フードバンクの倉庫でも米が底をつくなど「現代の米騒動」との表現もあった。食糧を自給自足できないのに「悪魔の飽食」の日本が露呈した。

③1996年まで半世紀続いた旧優生保護法のもとで障害などを理由に不妊手術を強制された人たちが国を訴えた裁判で、最高裁は7月3日、憲法（第13条）違反だと認め、「障害がある人を差別し、犠牲を強いた国の責任は重大」と賠償を命じ、賠償責任に時効はないとした。④袴田事件も長かった。58年前の静岡県で一家4人が殺害された事件で、9月26日静岡地裁は、捜査機関によって証拠がねつ造されたと認定し、袴田さんに再審無罪を言い渡した。10月検察は控訴を断念、袴田さんの無罪が確定した。次は狭山事件の石川一雄さんだと希望をつないだ。

⑤10月11日、今年のノーベル平和賞は、被爆者の立場から核兵器廃絶を訴えてきた日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）が受賞することになった。核兵器のない世界を実現するための努力と核兵器が二度と使用されてはならないことを証言によって示してきたことが受賞理由とされた。「当事者団体」の価値が再評価された感慨が残った。⑥こちらは腹がたった。5月1日、水俣病の患者・被害者団体と環境大臣の懇談会で被害者の発言途中マイクが切られ発言が制止された。伊藤環境相は8日、水俣市に赴き謝罪し、懇談のやり直しを約束した。水俣病未認定患者の憤りと幕引きにしたい国の攻防を背景にした権力の暴挙だった。

⑦10月27日投開票の衆院選は与党過半数割れとなり、「103万円の壁」の是非など俄然政策実現のハンドルが野党に回って来た。さぁ、しっかり成果を残して欲しい。⑧実現して欲しいのが1500円最賃だ。7月24日、最低賃金について厚労省の審議会は物価の上昇が続いていることなど踏まえ、過去最大となる時給で50円引き上げる目安を示し、全国平均は時給1054円とすることで決着した。大阪府最賃は1114円となった。問題はここからで、大企業や公契約等の受注等で、労務費を価格や契約単価に転嫁ができない現実を変えないといけない。最賃は「上げる」だけでなく「上げられる」が課題だ。

⑨5月1日、被差別部落の地名や写真など解説文を添えてネット上に掲載し差別を助長・拡散してきた問題で、大阪地裁は投稿者の鳥取ループ・示現舎というグループに記事の削除を命じ、「差別されない権利」を事実上認めた。こんなヘイト的差別に対し裁判所まで行かなくても済む「人権委員会」のような常設機関が必要だ。⑩大阪人権博物館リバティおおさかを大阪公立大学に設置するための寄附が訴えられ、部落解放同盟西成支部は一千万円を集めた。来年が良い年でありますように。

冨田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

［若松司］衆院選でも兵庫県知事選でも見るにつけ、それぞれの意見や見解の正誤や善し悪しを判断する土台がなくなってしまっているように感じる。それはやはり怖いことだ。

［山村裕太］「山村は雨男」という非科学的なことをよく言われますが、最近何かしらイベントがあると雨の確率が高すぎるので、科学を凌駕してきたのかなと思っています。

地域の縁を心でつなぐ

松向寺さんの心の時間

店を営むある檀家さんが「コロナ以来、売り上げが落ちて赤字続きや。先祖の法事をしたら、商売、上向きますか？」と尋ねられたので「仏教の書物にはお金儲けのことは書かれていません。商売と法事は別でしょう。」と答えました。商売繁盛なら神主さんに祈祷してもらった方がご利益はあるかと思います。

「四門出遊（しもんしゅつゆう）」の故事では、王城の門の外で「老人、病人、死者」と出会ったお釈迦様が人生の根本の苦しみに気づき、その解決を求めて二十九歳の時に「王子の位、家族、財産」を捨てて修行者となりました。その後、三十五歳でさとり（心の苦しみをコントロールする生き方）をひらかれ、人々に説き、八十年の生涯を終えられました。

古今東西、心の苦しみの一因は「欲」にあります。欲には限りなく湧いてくる本性があり、それに振り回されている間は満足を感じません。仏教を学ぶと、わずかな欲で満足が得られるように心がコントロールされ、一回きりの人生を満たすための智慧が身につくようになるのです。

松向寺　通法

写真は人生の一部が映ったもの。ここは思い出や自慢の1枚を少しご紹介するコーナーです。

ワタシの1枚

『さいごのふたり』

数年前、通っていた小学校の閉校式に参加してきました。写真は閉校式前日に撮らせてもらった、最後の在校生が通う教室。ふたりだけなので、学年が違っても同じクラスです。この日は子どもたちや学校の様子もいろいろ撮らせてもらいました。この学校が生きた最後の時間を残せて良かった。（デザイナー 谷口円）

ゆ～とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ～とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 12月号（vol.214）
発行日：2024年 12月 1日（創刊日：2007年 1月 1日）
発行：株式会社ナイス
住所：大阪市西成区長橋 3-6-33
電話：06-6563-1150
E-mail:info@nice.ne.jp
url:https://www.nice.ne.jp/

編集長：西田吉志
編集：磯拓哉、沖田一志、笹川勝正、田岡秀朋、福井龍磨、安田拓也、山村裕太、若松司（あいうえお順）
イラスト：hidarimaki、西井亜花梨
デザイン：谷口円

（株）ナイス
ホームページ